

銀色の道

「智」と「心」

塾長 山田勝登

Vol. 19 のトピックス

★教室便り

★四方山話

★42.195 km考

★編集後記

5 月も終盤、ここのところ季節は夏って感じです。GWに皆さんはどこかへ行きましたか？私は2年ほど前から世界遺産めぐりをしたいと思うようになり、予算と時間の都合で海外は断念、国内の遺産を回ろうと決めました。去年は「平泉」「石見銀山」へ行き、今年のGWは屋久島へ行って「縄文杉」とジブリの映画「もののけ姫」のモデルになった「白谷雲水峡」を探索しようと思っていました。しかし…12月8日に痛めた踵の具合がいまだに良くないので断念。

縄文杉までは山道で片道 11 kmほどあり、往復で10時間はかかるのです。



そこで代わりに行ったのが、富山の「黒部ダム」。気温は5℃と低かったのですが、そう寒さは感じなかったです。長野県側から6kmの関電トンネルをトロリーバスに乗り黒部駅へ。途中で「破碎帯」の電飾がありました。80mくらいの長さだったでしょうか。そこでは土砂が崩れたり、水が出たりの超難工事で、多くの工事関係者が亡くなっているんです。

黒部駅に着き 260 段ほどの階段を上り、展望台へ。あの景色が待っていました。周りはまだ雪景色。残念だったのは豪快な観光用の放水が6月下旬～10月中旬で、やっておらず見られなかったこと。レストハウスで、名物「ダムカレー」なるものを食べて、黒部をあとにしました。



というわけで、銀色の道 vol. 19 の発進です。

◆教室便り◆

New Face 紹介

2014年度に入塾してくれた生徒を紹介します。よろしくね！

長良西小1年 K.O君
とにかくめちゃくちゃ元気印！
塾のすぐ近くです。



加納小4年 H.O君
興味を持ったことにはあくなき追求を惜しみません
ネットでお母さんが調べてくれました。



明郷小4年 H.O君
お話作文がとても上手！
お兄ちゃん2人に続いての入塾です



明郷小4年 Y.O君
速読が大好き！
お兄ちゃんに続いての入塾です



長良西小4年 R.Yさん
ロボット教室では紅一点です！

長良西小5年 R.Y君
ロボットを作るのが楽しくて楽しくて！
兄妹、チラシを見ての入塾です

聖徳学園中2年 N.Hさん S.H君
双子の姉弟。お掃除隊、4、5月参加して
くれました。
チラシを見てきてくれました



中央中2年 T.Mさん
とても優しいお姉ちゃん。弟妹の面倒見が
いいですね。
お兄ちゃんお姉ちゃんに続き入塾



新年度になって、5月25日までに
入塾してくれた生徒です。
以降の入塾は次回紹介します。

滝高校1年 R.Sさん
ハキハキとても明るい子。陸上部で活躍中。
お兄ちゃんに続き入塾



岐阜北高校3年 N.Tさん
愛媛は南予人の血が流れています！
おばあちゃんの紹介です



岐阜高校3年 M.Nさん
いつもニコニコ笑顔が絶えません。音楽が
大好き！
中島千尋さんの紹介です



バス旅行

本年度の一番最初のイベントは、TDS バス旅行でした。4月1日夜10時50分岐阜を出発して、早朝4時半にTDSにつきました。このところ、ずっとTDLだったので久々でした。

行きは元気だった生徒も、帰りは疲れからか爆睡状態。いつもながら、眠れる生徒たちがうらやましい。そう、私はバスの中ではほとんど眠れないのです。おまけに今回は、腰が痛くて…。

来年はUSJです。

街の掃除隊

4月26日、岐阜公園の掃除をしました。5月の掃除隊のお知らせにも書いたように本年度第一回目は過去最少の人数でした。林姉弟と私たち二人の4人。しかし公園の入り口付近全体をきれいにできました。

掃除の途中のことでした。世界一の人口を誇るアジアの大国の観光客が大勢公園の中から、出口（入り口）に向かってきたのです。まずは4人が横一列で、私がほうきで集めていた落ち葉の上を何食わぬ顔で歩いて行きました。その後の集団も同様に葉っぱを散らかしながら歩いて行きました。日本人なら、普通よけて通るでしょう。

先日も南沙諸島近海で、ベトナムの船に体当たり。数年前にも我が国の船に…そん

なことがありましたね。あの時は弱腰の政府が、船長を簡単に中国に帰してしまいました。砲撃されても文句が言えない行為をした船長をですよ！

さらには自衛隊機に戦闘機が30mまで接近しました。はっきり言って異常です。どこまで傍若無人な行動に出るのか、あの国は？と思わざるをえません。

我々にとって当たり前のことが、当たり前ではない国なのですね。

儒教って、あの国から伝わってきました。孔子と言う偉い人が始めた学問です。



一番男前の画像を拾ってきました

儒教の教えって「嘘をつかない」「約束は守ろう」「他人をいたわる」などという、ごく当たり前のことなんです。それができないから、あの国では学問にまで昇華してしまったのでしょうか。孔子が日本に生まれていたなら、「そんなこた〜あたりめ〜よ！」って、きっと歴史にその名を残すことはなかったんじゃないでしょうか。

ちなみに北京オリンピックの時には、市民に「正しいマナー普及読本」なるものが配

布されました。中身はと言うと…

「公共の場にはパジャマにサンダル履きの格好で出入りしない」

う〜ん、北京市内はどこかの温泉街のようなところなのでしょうか。

「黒革靴には白いソックスははかない」

…これに関してはノーコメントです。

さらに「年配の女性はヒールがあまり高くない靴を選ぶべき」

よくわかりませんが、おばあちゃんを心配するより、五輪中はけつまづいて、手間をかけさせるな、とでも言っているような気がします。

そして「4つの悪習」なるものが五輪開催中に厳しく取り締まらなくてはいけないことと認定されました。

- ①所構わぬ痰はき
- ②順番を守らぬ割り込み
- ③気ままな喫煙
- ④罵倒語

一国の首都でこのような注意をわざわざ冊子を作ってまで市民に注意しないといけないなんて…。

う〜む、まさに幼稚園の年長さんに礼儀を教えている感覚。孔子も草葉の陰で泣いていることでしょう。

最近のあの国の動向に、怒りを禁じえない日本国民の私です。少々感情的に書いてしまいました。ごめんなさい。

さて5月24日、日中友好庭園の掃除をしました。中3のH君とおばあちゃん、中2のMさんとお母さん、W林兄弟(S君・Cさん、Nさん・S君)が参加してくれました。

今回、掃除中に二人の年配の女性から声をかけられました。一人は夫婦で散歩をしている近所の人風で、もう一人は、これまた夫婦でこれから金華山でトレッキング、って感じのおばあちゃん。

「御苦労さま！」って言われ、顔を上げると、そこには ス・テ・キ な笑顔がありました。この笑顔、私は大好きです！

素直に労をねぎらって声をかける人って、そんないい顔をしてるんだ。私もやってみよう、と思う間もなく、帰りの駐車場へ行く途中にチャンスは訪れました。私たちと入れ違いに、庭園を掃除にきた、団体の方とすれ違いました。

「あ、ご苦労様です！」・・・私の場合、文字では表せない、なんともぎこちない声かけとなってしまいました。

あ〜情けない…。

というわけで掃除終了時の集合写真です。



参加してくれた皆さん、ありがとう！

◆四方山話◆

5月11日日経新聞の朝刊コラム
「春秋」より。

「職種は「現場総監督」です。
原則1日24時間の勤務。
年間365日、休暇はありません。
食事をとる時間はありますが、
他の同僚が食べ終わってからです。
徹夜で働く場合もあります。
サラリー？無休です。
世界で一番大事な仕事ですよ。
やってみる気はありますか？
こんな就活の面接に、
応募者たちの顔がみるみる硬くなって
いく。
いまどきこれほどひどい会社があるの
だろうか。
それとも何かの冗談だろうか。
ネットで話題になった、ある企業の広告
の動画である。
面接官は自信たっぷりで語り続ける。世
界でも何億人もの人がこの仕事に就い
ている、という。

さて、みなさんこの職業って分かります
か？

このCMを、見たい方はYou Tubeで「世
界で最も過酷な仕事」で検索すると見るこ
とができます。

もしくは

<https://www.youtube.com/watch?v=3auCJhcz710> で。

では「春秋」を続けましょう。いきなり答
えから始まります。

「母と言う職業である。
電車の中で気まずい空気の親子を見かけ
た。部活の様子や体調などあれこれ問いか
ける母親に、中学生らしき男の子は横を向
いたままだ。煩わしくて仕方がない風で舌
打ちなどしている。母親は怒って、ますま
す声が高くなる。大人になっていく子供を
いつまでも心配し、管理下に置こうとして、
疎まれるのもまた母である。

奉仕は無償で無限。けれども総監督を引
退する年齢は意外に早く来る。子は10代
後半には母から自立し、母は子離れして再
び自分自身と向き合わねばならない。どち
らも甘えと期待を断つ、ほんの少しの勇気
と葛藤が要る。お母さん、ありがとう。素
直に言えるだろうか。大人同士だからこそ
心に届く感謝の言葉もある。」



私は青春時代には、母にはずいぶん迷惑
を、ひどい言葉をかけました。心の中でや
っちゃあいけない、言っではいけないと分

かつていながら…。素直になれなくてあとで一人で「ごめんなさい」とつぶやくことも幾度とありました。一人で生活をする、しみじみと親のありがたさが分かります。

大学1年の秋、19回目の誕生日の時でした。金閣の森が見えるアパートの2階の踊り場から愛媛の方角を向いて、手を合わせました。「親父、お袋ありがとう」。以来36回、自分の誕生日には、感謝の気持ちを込めて手を合わせています。

といっても、若いころは帰郷した際には、やはり以前と変わらず減らず口を叩いていましたが…。

本当に素直にモノが言えるようになったのは、社会人になってから、いや、結婚して子供ができてからでしょうか？

今年は母に、GWに黒部ダムと焼肉屋さんで撮った家族写真を送りました。親の究極の願いって皆さん分かりますか？最近入塾した生徒は、説明会で私が言ってるので覚えていると思います。「子供の幸せ」です。

愛媛の母から返事が届きました。

「睦まじい家族写真、嬉しく何度も見せてもらいました。焼き肉美味しかったことでしょう。将聡（長男）、身体ががっちりして勝（私）より大きくなったのではないかしら。崇太（次男）の表情もばっちり、美女二人（長女・次女）も元気そう。皆揃っ

て元気そうなので安心しました。写真を見ていると笑がこぼれ、元気がもらえてうれしいです。～中略～ 写真をもらったので返事を書きました。元気で仲良く暮らせるのが一番です。公子さんにもよろしくお伝えください。

母より」

先月87歳になった母の手紙より、最初と最後を抜粋しました。

私がまだ年長さんか、小学校1年生の頃だったと思います。

庭でたらいを出して、泥んこ汚れの服をタワシで洗っていた母の横で、私は自分の宝箱を開けたり閉めたりして遊んでいました。そしてふと母に質問をしました。

「母ちゃんの宝はな～に？」

「それは4つある」と母は答えました。少々考えましたが分からず、聞きました。母はこう答えました。

「お母さんの宝は、世利姉ちゃん（長女）と、茂兄ちゃん（長男）と、そよ姉ちゃん（次女）と、勝（私、勝登）の4人の子どもかな」

子供心にもなんとも面映ゆいような、嬉しい思いに浸ったのを覚えています。

事務長は、40歳で子育てを「1」からリセットしたので、総監督を引退する日は、ずいぶん先のこととなりますね。（笑）

この世のすべてのお母さん、ご苦労様です。本当にありがとう！

当初の編集後記

本来ならば、先週からこの銀道 vol. 19
を配る予定でした。ところがある事情で、
遅くなってしまいました。そのわけは後で。
これは先々週書いた、幻の？編集後記です。

5月2日のことです。事務長と半年ぶり
に金華山に上りました。8時半に自宅を出
発。七曲登山道から岐阜城を目指しました。
「こんにちは！」とすれ違う下山者、途中
のベンチで休憩する人、そして追い抜いて
行く人、ほとんどがお年寄りなのです。こ
れにはびっくりしました。上りでスタスタ
と我々を簡単に追い抜いて行ったおじい
ちゃん、ハウンドツースのニッカボッカに
赤系統のアーガイルのゲーター。トレッキ
ングシューズにステッキ？小粋なウイン
ドブレーカー。いや～おしゃれで本格的で
す。じつにかっこいい！

私はというと、事務長についていくのに
必死。この季節、木の枝からス〜っと糸を
垂らし、毛虫がうようよ。先を歩く事務長
は木の枝で毛虫を払いながら上っていま
した。しかし、その間隙を縫ってTシャツ
に着地（着布？）する毛虫が2匹。

それに気付くと

「いや、~~~~~っ！」

と絶叫。↑「や」に濁点の字は本来ありません。

「ね、ね、早く早く、払ってよう~~~~！」

とひきつり顔。

毛虫からすると、事務長は怪獣の如く見え

てると思うんですが…彼らは対照的に冷
静で寡黙です。そして事務長曰く

**「もうこの時期に金華山には絶対に上ら
ないから！」**

岐阜城に着き、すぐさま折り返し展望台へ。
私の大好きな高橋尚子ロードが一望です。
ここから見る尚子ロードはいいですよ。



「あ〜思い切り走りたい！」

そんな思いにとらわれます。汗が乾いて寒
くなったので帰りの途へ。今度は別の建脚
おじいちゃんに抜かれました。先でそのお
じいちゃん、ベンチに座って友人と、なに
やら話をしていました。

「僕はね、笠松くらいなら歩いて行くね」

恐るべし……。

下山後、孫の乳母車を押しながら歩いて行
く老夫婦を追い越すと、後方からそのおば
あちゃんの声が聞こえました。

「10分歩いたら、もうえらいわ」。

10数年後、笠松へ行くのに歩いて行ける
じいさんになりたい、と思いました。老い
は足から…。昨年故障で断念した、大晦日
の 42.195 kmに向かって、無理せずにボチ
ボチ頑張ります。今回も最後まで読んでい
ただき、ありがとうございます！

◆42. 195 km考◆

前回といってもずいぶん前になります
が、予告していた内容を書きます。

「寄せて上げてギュッ」

某下着メーカーのCMではありません。
ジョギングシューズのひもの締め方です。
2年前の11月、シューズマスター野村氏
のセミナーに行くまでは、私は適当に？ひ
ものを締めて結んでいました。

ところがセミナーで野村氏にシューズ
フィッティングをしてもらおうと、これが同
じシューズかと思うくらいに違ったんで
す。



写真のように、シューズ側面、下段から
足に添うようにたくしあげて、一本一本、
ひものを丁寧に締めていきます。その折には、
踵を上げて、血管をふさがないようにしま
す。これだけでもジョギングシューズの履
き心地は違うんですね。足の甲の部分で
ひもでシューズを締めるのではなく、足の
形に添ってシューズをフィットさせ、ひも
でそれを固定する、という感覚ですかね。
ぜひお試しあれ。

さらに、ジャストサイズのシューズを履

くと、(ショップでは店員は1cmほど大きめのシュー
ズを勧めますが、これが大間違い) 血豆、爪の故障
はなくなります。足先が遊ぶから擦れてそ
んな症状が出るのです。さらには膝、腰痛
の原因ともなります。興味のある方はネッ
トで「プロが教えます。正しいランニング
シューズの選び方」で検索すると、野村氏
のブログが見れます。

「限界」って？

私の初めてのフルマラソン挑戦は20
11年12月18日、高橋尚子ロードでし
た。私は芝生のあるところでは芝生の上を
走っていました。なぜかという踵の状態
が万全ではなかったもので、固いアスファ
ルトより、負担がかからないからです。しか
し35歳からは、アスファルトの上を走り
ました。それはなぜか？

ふくらはぎに断続的に痙攣が襲ってき
たからです。アスファルトは平面なので、
一步一步のふくらはぎにかかる負荷がほ
ぼ均一です。芝生の上は、凹凸があるので
負荷が均一ではありません。そんなほんの
少しのイレギュラーな負荷で、足が攣る状
態になっていました。それでも何度も足が
つり筋肉を伸ばし走りました。

応援に来てくれた生徒、DVD「塾長の
42.195 kmへの道」、HPの心の授業の「塾
長の42.195 kmへの道」を見た方はお分か
りかと思います。

最後は歩いているのか、走っているのか
わからないような状態でゴール。もう涙が

止まりませんでした。それから2週間、階段は後ろ向きにしか降りられませんでした。また膝をやられて3か月間走ることができませんでした。限界ってそういう状態なのです。さて、そんな状態で走っている私に生徒たちは応援してくれました。自分に余裕のある時は「頑張って！」の応援が力になります。ところが限界のときには、なんとそうでもなかったのです。応援に対して「ありがとう！」の言葉さえ返すことが出来ない、そしてそれがかえって負担になるのです。

ではどうするのがよいのか？

それは・・・笑顔で「うんうん」と頷いてくれるのがいいのです。

わかります？この心理状態。

以来、私は年明けの受験生には「頑張れ！」と言う言葉をほとんどかけません。

「頑張っとるな！」(状態のフィードバック)とは言いますけど。

しかし、あの初挑戦は、実はまだ限界ではなかったと今思います。なぜって…走れたんですよ、最後まで。限界を超える、ということは走れなくなることだと思えます。私は最後まで歩きませんでした。

私の本当の限界挑戦は中1の時の校内マラソン大会だと思っています。1年から3年まで、海沿いの県道を片道2.5km、往復5km、男子生徒全員で走るのです。

最後の1^き、私は野球部の先輩2人、チ

ームメイト2人の5人の集団で走っていました。最後の500mくらいで先輩2人がスパートをかけました。私と友人は必死について行こうとしました。そこまで付いて行くのにかなりへとへとになっていたのに、そこからスピードを上げていったのです。一人の友人がまず脱落。先輩に徐々に離され、私ともう一人の友人が並走。

学校は海沿いの県道より50mの坂に登ったところにあります。歯を食いしばって坂道を上り、ゴールまで最後の50m。

友人は野球部で短距離走が一番遅かったのです。だから最後の直線で振り切れるだろう、と思っていました。ところが足が動かない。頭の中で「???」必死で足を上げようとするに、なんとも上がらない。もがくように走っていました。最後は友人と同時にゴール。そして私はもんどりうって倒れ、そのまま目の前の砂場で動けなくなってしまいました。(川内優輝選手みたい？)

息は完全に上がり、体は経験したことがない異常な状態で、動こうにも動けなかったのです。10分ほどたった頃でしょうか、やっと起き上がることができたとき、自分の足が自分の足でないような、そう一步一步が鉛のように異常に重かったのです。

それが私の本当の限界の経験です。ちなみに2年、3年時はそこまでしゃかりきに走れませんでした。3年時はマラソン大会が終わった後、相当悔みましたね。

3年前に「42.195km」、昨年「100km・ウ

「ルトラマラソン」に挑戦します！と言ったのは、常に潜在意識の中に「中1の時に経験したあの限界にもう一度挑戦してみたい」という思いがあったからではないかと思っています。

これ以上できない・・・そんな経験・・・はい、受験生諸君、チャンスですよ！

ずいぶん以前のことで、天才F1レーサーと呼ばれた、故アイルトン・セナと、国際ジャーナリスト落合信彦氏（アサヒスーパードライの初代CM出演者…古い!）の対談でセナがこういうことを言っていました。



余談ですが、スーパードライと言えば、1987年に当時5%前後のシェアでもがいていた瀕死のアサヒビールから新発売。宝塚の小さなアパートで、夕食時に事務長と初めて飲んだ時のことを思い出します。二人で顔を見合わせ「これがアサヒなの？うまい!」。苦みと甘さを抑えた、ドライというキレ味に感動しました。

当時CMはJohn Warrenの「Take me back」のアップテンポの曲に、古代遺跡やF1等のスポーツシーンを捉えた斬新なカット&渋い落合氏のキャラがドンピシャ。

また当時目新しかったシルバーのラベルが「ドライ」という言葉に見事にマッチしていました。

CMの最後に流れたキャッチコピーが「この味がビールの流れを
変えようとしている」

そして半年後アサヒは言い切りました。

「この味がビールの流れを
変えた！」

納得でしたね。

当時ビール業界でシェア60%を超えるガリバー「麒麟」の牙城が崩れると、その時だれが想像できたでしょうか？

ちなみに当時の麒麟のCMは中島常之（プロゴルファー）と渡辺貞夫（トランペット奏者）がシャワーを浴びている情景。曲は渡辺氏のManhattan Paulista。コピーは「時代を超えたうまさです」そして字幕で「ラベル誕生100年」。なんとその時から麒麟の凋落が始まったのです。

アサヒと対照的なのんびりムードのCMでしたね。

寄り道が長くなりました。話を元に戻しましょう。さて対談でのセナの言葉です。

「限界までの努力は誰でもできる。

そこからどれだけやれるかが、

勝敗を分けるんだ」

100分の一秒を争うギリギリの世界で、命を懸けてハンドルを握っていたセナの言葉です。

受験生のあなたに贈ります。

◆編集後記◆

書きかけた「銀道」をUSBメモリーに保存しようと、パソコンに指すと「初期化しますか?」というメッセージ。「はて?」初期化と言うと、まっさらにするということですね。「おかしいぞ?」とUSBメモリー中をのぞくと何も無い。???今まで書いて保存したワードの銀道他の文書がないのです。長良の教室の前のPC病院に持っていきました。

「これは壊れていますね。うちではデータ復旧ができません」といってデータ復旧の会社のパンフレットをもらいました。愕然としました。目の前が真っ白。実はUSBメモリーが壊れたのはこれで3回目です。

USBメモリーはあくまでも移動用であって、保存に使うものではないと言われました。私はかつては、そうしていましたが、いつしかUSBに重きを置いてしまっていたのです。

壊れたUSBフラッシュメモリー
今後日本製を使う
事を勧められました



それまで書いた「銀道19」どころか、以前の18までもがパソコンに残ってないのです。ネットで岐阜市内の会社を探し、持って行きました。2枚のDVDで帰ってきたデータ。ビデオは全滅でした。

ワード・エクセルは、フォルダーがなく、ただ番号があるだけ。それもすべてが復旧できたわけでもなく、1000程の文書の一つ一つ開けて確認をしないとイケない状態でした。順番も結構ばらばら。

9枚まで書いていた「銀道19」のうち、3枚の銀道19のワード文書探すのにどれだけ時間がかかったか。それ以上は探すのをやめ、もう一回最初から書き直すことを選択しました。その3枚のうちの1枚が、「当初の編集後記」です。

さて、明日は国広・島村先生の講演会です。本当に楽しみです。

日本で一番、大学受験を知り尽くしたお二人です。保護者の皆さんの時代と、変わっていることも多々あります。きっと、来て良かった!と思う講演会になることでしょう。次号にまた感想などを載せますね。

来週から早い中学では中間試験が始まります。宣言します。

生徒の平均点が400点を越えたら、本年度の学志舎アワードには、丸刈り頭で出ます。中学生諸君、私に「まいった!」と言わせてみせなさい。

最後まで読んでいただき、ありがとうございました。